

# Panasonic AC Servo driver

## RSI-ECAT-Master 動作確認報告書

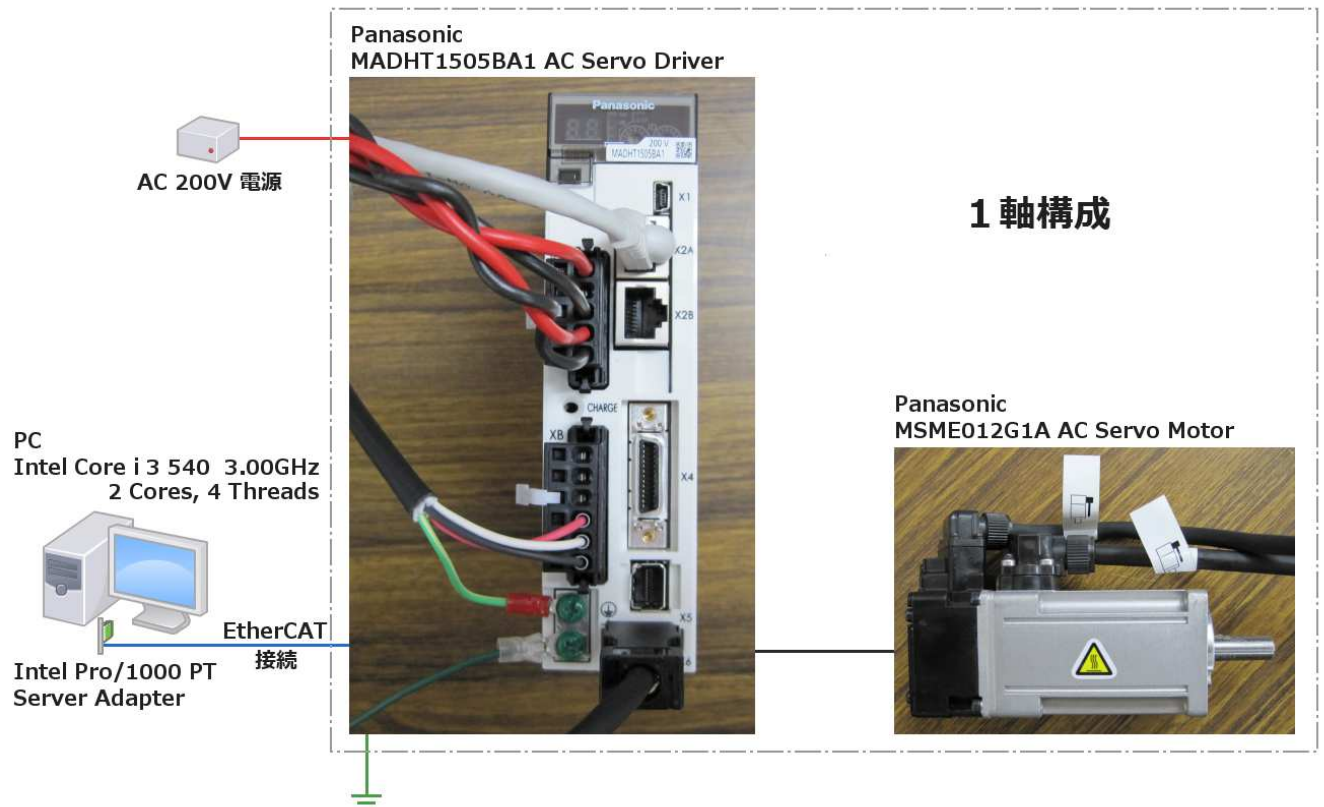
### 1. 動作結果

RSI-ECAT-Master において、Panasonic AC Servo driver が **正常に動作する事を確認しました。**

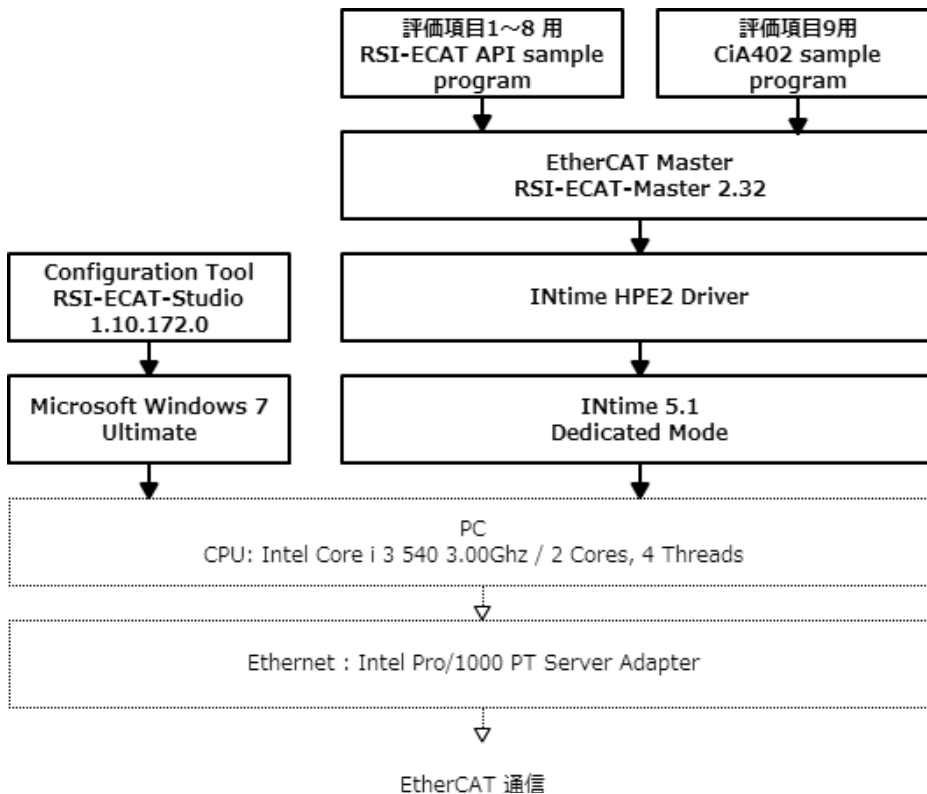
### 2. RSI-ECAT-Master INtime® において、正常に動作すると判断した基準

- <評価項目1> スレーブとして認識でき、アタッチできる事。
- <評価項目2> CoE の Mailbox が利用でき、設定が変更できる事。
- <評価項目3> INIT から Operetional へ遷移できる事。
- <評価項目4> サーボドライバの初期化ができる事。
- <評価項目5> サーボモータの正転回転ができる事。
- <評価項目6> サーボモータの逆転回転ができる事。
- <評価項目7> サーボモータの停止ができる事。
- <評価項目8> サーボドライバの速度変更ができる事。
- <評価項目9> CiA402 汎用サンプルプログラムで一連の動作ができる事。

### 3. 機器構成図



#### 4. ソフトウェア構成図



#### 5. 環境構築手順

ネットワークカード Intel Pro/1000 PT Server Adapter を PC へ導入しました。

Panasonic サーボドライバおよびモータと、EtherCAT® 接続する PC を Cat5 以上のネットワークケーブルで接続しました。

Panasonic サーボドライバ設定ツール PANATERM を使用するため、Panasonic サーボドライバと PC を USB ケーブルで接続しました。

配線が正しく接続されている事を確認後、PC および Panasonic サーボドライバの電源を投入しました。

今回の評価では、リミットセンサーを取り付けずに評価するため、**PANATERM ver.5.0** (\*1)を起動し、メニューの、その他 より ピンアサイン設定 を開き、リミットセンサーの正転(07(SI2) POT\_B 接)/逆転(08(SI3) NOT\_B 接)の接点をデフォルトの B 接点から A 接点(POT\_A 接 /NOT\_A 接)に変更しました。

(\*1) **PANATERM ver 5.0** :

Panasonic サーボドライバの設定、モニタできる Windows ツール です。

[http://industrial.panasonic.com/jp/i/25000/fa\\_minas\\_a5\\_panaterm/fa\\_minas\\_a5\\_panaterm.html](http://industrial.panasonic.com/jp/i/25000/fa_minas_a5_panaterm/fa_minas_a5_panaterm.html)

#### 6. <評価項目1> スレーブとして認識でき、アタッチできる事。

- ① Panasonic 社より提供された ESI ファイルをスレーブライブラリフォルダ(\*1)へ配置しました。  
(※1 スレーブライブラリフォルダ : C:\ProgramData\KPA\EtherCAT Studio\slavelib\)
- ② Panasonic サーボドライバ スレーブ検出評価の為に RSI-ECAT-Studio を起動しました。
- ③ RSI-ECAT-Studio の画面からスレーブヘアタッチボタンを実行しました。
- ④ RSI-ECAT-Studio のスレーブ情報ツリーへ Panasonic サーボドライバが追加されたことを確認しました。

⇒ **結果** : Panasonic サーボドライバが検出された為、正常と判断しました。

## 7. <評価項目2> CoE の Mailbox が利用でき、設定が変更できる事。

- ① <評価項目 1> の状態から、RSI-ECAT-Studio の State タブより、マスター状態を INIT から Pre-Operetional へ移行させました。マスター状態の変化は、RSI-ECAT-Studio の State タブから確認しました。
- ② スレープ情報ツリーの Panasonic サーボドライバを選択し、Mailbox タブにある CoE 機能を選択しました。
- ③ CoE により読み出された Object Dictionary の一覧から、次の項目を変更し設定が反映されるかを確認しました。

設定項目	OD Index 値	設定した値	結果
目標速度	6081h	2000000 (指令単位/s)	○
加速度	6083h	5000000 (指令単位/s)	○
減速度	6084h	2500000 (指令単位/s)	○

- ④ RSI-ECAT-Studio から値情報をリフレッシュし、それぞれ設定した値に変化しているかを確認しました。

⇒ 結果 : 同画面にて値が更新されている事を確認した為、正常と判断しました。

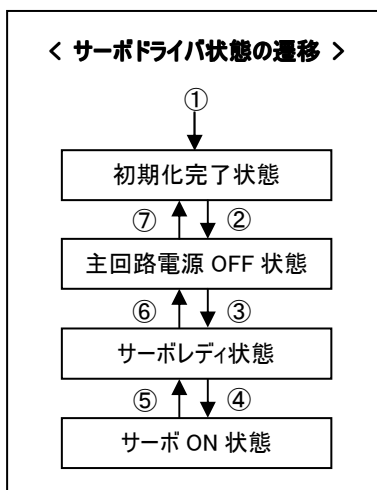
## 8. <評価項目3> INIT から Operetional へ遷移できる事。

- ① <評価項目 2> の状態から、RSI-ECAT-Studio の State タブより、マスター状態状態を Pre-Operetional から Operetional へ移行要求をかけ、マスター状態およびスレープ状態が、Operational へ移行するかを確認しました。
- ② マスター状態状態、スレープ状態状態の変化は、RSI-ECAT- Studio の State タブから確認しました。

⇒ 結果 : マスターおよびスレープ全てが、Operational へ移行された為、正常と判断しました。

## 9. <評価項目4> サーボドライバの初期化ができる事。

- ① <評価項目 3> のマスター状態およびスレープ状態が Operational 状態から、サーボドライバ状態の遷移指令を要求しました。



- ② 初期化完了状態から主回路電源 OFF 状態に遷移要求をしました。

要求前状態	遷移要求コード	想定遷移状態	要求後状態	結果
初期化完了(70h)	Controlword : 6h	主回路電源 OFF(31h)	主回路電源 OFF(31h)	○

- ③ 主回路電源 OFF 状態からサーボレディ状態に遷移要求をしました。

要求前状態	遷移要求コード	想定遷移状態	要求後状態	結果
主回路電源 OFF(31h)	Controlword : 7h	サーボレディ(33h)	サーボレディ(33h)	○

- ④ サーボレディ状態からサーボ ON 状態に遷移要求をしました。

要求前状態	遷移要求コード	想定遷移状態	要求後状態	結果
サーボレディ(33h)	Controlword : Fh	サーボ ON(37h)	サーボ ON(37h)	○

- ⑤ サーボ ON 状態からサーボレディ状態に遷移要求をしました。

要求前状態	遷移要求コード	想定遷移状態	要求後状態	結果
サーボ ON(37h)	Controlword : 7h	サーボレディ(33h)	サーボレディ(33h)	○

- ⑥ サーボレディ状態から主回路電源 OFF 状態に遷移要求をしました。

要求前状態	遷移要求コード	想定遷移状態	要求後状態	結果
サーボレディ(33h)	Controlword : 6h	主回路電源 OFF(31h)	主回路電源 OFF(31h)	○

- ⑦ 主回路電源 OFF 状態から初期化完了状態に遷移要求をしました。

要求前状態	遷移要求コード	想定遷移状態	要求後状態	結果
主回路電源 OFF(31h)	Controlword : 0h	初期化完了(70h)	初期化完了(70h)	○

⇒ 結果 : サーボドライバ状態がサーボ ON 状態まで遷移できトルクがかかっていることを確認し、その後、初期化完了状態に戻る事も成功した為、正常と判断しました。

## 10. <評価項目 5> サーボモータの正転回転ができる事。

- ① <評価項目 4> の状態から、PI の 制御モード: Mode of Operation を 1: PP 制御(Profile position mode) に設定しました。
- ② PI の 目標位置: Target Position に 位置情報 50000000 の値をセットしました。
- ③ PI の コントロールワード: Controlword を Fh から 1Fh に変更し、動作を開始しました。
- ④ PI の 現在位置: Position Actual Value を確認し、50000000 の近似値内に変化しているかを確認しました。

⇒ 結果 : 正転回転し、PDI : Position Actual Value 値も近似値内の為、正常と判断しました。

## 11. <評価項目 6> サーボモータの停止ができる事。

- ① <評価項目 5> の状態から、PI の 目標位置: Target Position に 位置情報 100000000 の値をセットしました。
- ② PI の コントロールワード: Controlword を Fh → 1Fh に変更し、動作を開始しました。
- ③ その後直ぐに、PI の コントロールワード: Controlword を 1Bh に変更し、停止するかを確認しました。

⇒ 結果 : 直ぐに停止した為、正常と判断しました。

## 12. <評価項目 7> サーボモータの逆転回転ができる事。

- ① <評価項目 6> の状態から、PI の 目標位置: Target Position に 位置情報 0 の値をセットしました。
- ② PI の コントロールワード: Controlword を Fh → 1Fh に変更し、動作を開始しました。
- ③ PI の 現在位置: Position Actual Value を確認し、0 の近似値内に変化しているかを確認しました。

⇒ 結果 : 逆転回転し、PDI : Position Actual Value 値も近似値内の為、正常と判断しました。

### 13. <評価項目 8> サーボドライバの速度変更ができる事。

- ① <評価項目 7> の状態から、スレーブ情報ツリーの Panasonic サーボドライバを選択し、Mailbox タブにある CoE 機能を選択しました。  
 ② 目標速度(6081h)を変更し、速度の変化をみました。

※ 目標位置の 50000000 へ移動後は、目標位置を 0 に戻して確認しました。

OD 名	インデックス	設定した値	動作確認内容	結果
目標速度	6081h	1000000	低速でモータ回転することを確認	○
目標速度	6081h	3000000	高速でモータ回転することを確認	○

⇒ 結果 : 速度が変更されサーボモータが動作した為、正常と判断しました。

### 14. <評価項目 9> CiA402 汎用サンプルプログラムで一連の動作ができる事。

- ・ CiA402 汎用サンプルプログラムを動作させました。
- ・ EtherCAT® 通信開始から始め、動作モード = 8 : CSP 制御 (Cyclic synchronous position mode) で実行しました。
- ・ 軸の回転～停止までの一連の動作の確認をしました。

⇒ 結果 : 一連の動作が確認できた為、正常と判断しました。

<評価項目 9>で使用した CiA402 サンプルプログラムコード

```

/*****
* Description      : CiA402 モーションプログラムサンプル          サイクリック同期位置モード
*                  : (for Panasonic MADHT1507BA1)
* Software        : INtime 4.2 + RSI-ECAT 2.3.2
*****/
#include <stdio.h>
#include <string.h>
#include <rt.h>
#include <EhApi.h>

/*****
* Description      : CiA402 サーボドライバ状態遷移処理
*****/
WORD fnChgMotionGoState(WORD woStWd, WORD *pCrWd)
{
    switch( (0x6F & woStWd) ) {
        case 0: *pCrWd = (0xFF70 & *pCrWd) | 0; break; // 未初期化状態      -> 初期化要求
        case 0x40: /* (0x60 と同じ) */
        case 0x60: *pCrWd = (0xFF70 & *pCrWd) | 0x06; break; // 初期化完了状態      -> 主回路電源 OFF 要求
        case 0x21: *pCrWd = (0xFF70 & *pCrWd) | 0x07; break; // 主回路電源 OFF 状態      -> サーボレディ要求
        case 0x23: *pCrWd = (0xFF70 & *pCrWd) | 0x0F; break; // サーボレディ状態      -> サーボ ON 要求
        case 0x27: break; // サーボ ON 状態 (運転開始 OK 状態)
        case 0x2F: break; // 異常処理動作中状態
        case 0x28: *pCrWd = (0xFF70 & *pCrWd) | 0x80; break; // 異常状態      -> 初期化要求
    }
    return (0x6F & woStWd);
}

/*****
* Description      : main 処理
*****/
void main(int argc, char* argv[])
{
    WORD          woStatus;
    WORD          woReqState = 0;
    WORD          woNowState = 0;
    EHHANDLE     hAPI;
    BYTE         byValue;
    WORD         woStatusWord;
    WORD         woControlWord;
    DWORD        dwTargetPos = 0;
    SLAVE_DETAIL stSlave;

```

```

BYTE                                     bySize;

// RSI-ECAT 起動状態チェック (RSI-ECAT API コール)
woStatus = EhGetEhNodeStatus("NodeA", 100);
printf("EhGetEhNodeStatus() Status = %04xH\n", woStatus);
if( 0 != woStatus ) {
    printf("start check failed\n");
    return ;
}

// RSI-ECAT API 対話ハンドル OPEN (RSI-ECAT API コール)
hAPI = EhOpen("NodeA", &woStatus);
if( 0 != woStatus ) {
    printf("EH Handle Open failed\n");
    return ;
}

// Master スタートチェンジ 要求 (RSI-ECAT API コール)
// MST_OPERATIONAL : オペレーショナルへ遷移
woStatus = EhRqState(hAPI, MST_OPERATIONAL);
if( 0 != woStatus ) {
    printf("EhRqState() failed. Status = %04xH\n", woStatus);
    return ;
}

// オペレーショナルへ遷移したかどうかの確認処理
while(1) {
    // 現在の Master スタート状態取得 (RSI-ECAT API コール)
    woStatus = EhGetState(hAPI, &woReqState, &woNowState);

    // オペレーショナルへ遷移完了かを確認
    if( woNowState == MST_OPERATIONAL ) {
        break; // 遷移完了の為ブレイク
    }

    // スタートチェンジ 待機用スリープ
    RtSleep(500);
}

// スLEEP 検索 : Panasonic Servo Driver 用の VendorID, ProductCode, RevisionNo をセット
memset(&stSlave, 0, sizeof(stSlave));
stSlave.dwSize = sizeof(stSlave);
    stSlave.dwVendorID = 0x066F;
    stSlave.dwProductCode = 0x515070a1;
    stSlave.dwRevisionNo = 0x00010000;
woStatus = EhFindSlave(hAPI, &stSlave);
if( 0 != woStatus ) {
    printf("EhFindSlave() failed. Status = %04xH\n", woStatus);
    return ;
}

// CiA402 動作モードの変更
// 8 : CSP 制御 (Cyclic synchronous position mode) サイクリック同期位置モード へ変更要求
byValue = 8;
    bySize = 1;
woStatus = EhWriteByte(hAPI, stSlave.dwViosOutBaseOffset + 2, byValue);
if( 0 != woStatus ) {
    printf("EhWriteByte() failed. Status = %04xH\n", woStatus);
    return ;
}

// CiA402 サボドライブ 状態を、サボ ON に遷移
while(1) {
    woControlWord = 0;

    // サイクリック処理待ち
    woStatus = EhWaitForCyclic(hAPI, WAIT_FOREVER);
    if( 0 != woStatus ) {
        break; // サイクリック処理が中断された為、終了
    }

    // 現在のサボドライブ 状態取得 (RSI-ECAT API コール)

```

```
woStatusWord = EhReadWord(hAPI, stSlave.dwViosInBaseOffset + 2, &woStatus);

if( 0 != woStatus ) {
    printf("EhReadWord() failed. Status = %04xH¥n", woStatus);
    return ;
}

// 現在のサーボドライブ状態から、次のサーボドライブ状態へ遷移させる関数コール
woStatus = fnChgMotionGoState(woStatusWord, &woControlWord);
if( woStatus == 0x27 ) {
    break;
}

// 次のサーボドライブ遷移値を書き込み (RSI-ECAT API コール)
woStatus = EhWriteWord(hAPI, stSlave.dwViosOutBaseOffset, woControlWord);
if( 0 != woStatus ) {
    printf("EhWriteWord() failed. Status = %04xH¥n", woStatus);
    return ;
}
}

// モーター動作処理
while(1) {
    // サイクリック処理待ち
    woStatus = EhWaitForCyclic(hAPI, WAIT_FOREVER);
    if( 0 != woStatus ) {
        break; // サイクリック処理が中断された為、終了
    }

    // ループ毎に 1000 分移動要求
    EhWriteDword(hAPI, stSlave.dwViosOutBaseOffset + 3, dwTargetPos);

    dwTargetPos += 1000;

    if(dwTargetPos > 1000000) {
        break;
    }
}
printf("program end.");
}
```

※TenAsys®, INtime®, eVM® and iRMX® are registered trademarks of the TenAsys Corporation.

※EtherCAT® は、Beckhoff Automation GmbH, Germanyの登録商標です。